

# 第15回草加子育てのつどいを終えて・・・

実行委員長 父母連 杉森

今年も子育てのつどいを行いました。

今年も勤労福祉会館で鳩ヶ谷市里保育所の蔵持先生の講演会と、あさひ保育園にて幼児保育を兼ねたパネルシアター、家庭保育室や冒険遊び場、親子劇場などのパネル展示でした。

鳩ヶ谷の里保育所の園長先生がどんなお話をしてくれるんだろうと期待して企画を取り組んでできましたが、想像以上の楽しいお話、うなづくお話、うるっときた話で蔵持先生の優しい声に吸い込まれてしまいました。

里保育所には山があるとおっしゃってましたが、そういえば私も子供の頃山を駆け上がったり下りたりして、遊んだ覚えがありました。

なんてことない山なただけで、それが子供にとっては格好の遊び場になるんですね。

草加の公立保育園でも

里保育所のすばらしいところをいい意味で盗んで欲しいなーと思いました。

今後、私に子供が出来たら、里保育所に預けたい！って感じた講演でした。

みんなの

# 声

参加してくださったみなさまありがとうございました。

## 「第15回草加子育てのつどいに参加して」

草加市家庭保育室連絡会会長 松本道子さん

子育てのつどいに参加させていただき、今年で3年目になりました。

それぞれの家庭保育室が思いを込めてポスター作りをしました。

多くの方々に興味深く見ていただいている様子に、私達も大変嬉しく思いました。

また、蔵持先生の経験豊かな広い心と暖かい心を持った保育のお話しはとても参考になり、胸が熱くなりました。子育てのつどいを通して、多くの方々との交流ができたことは私達にとって大切な事だと感じております。

本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

### これからの予定

1/13 (土) 10:00~12:00

「第2回会長会」

草加文化会館

1/27 (土) 10:00~12:00

「どうなる？どうする？」

保育情勢を学ぼう！

浅井春夫さん(立教大学)

草加文化会館

## アンケート 感想より抜粋

- 里保育所の先生の講演とても良かったです。子供を思うあたたかさが伝わってきました。保育園で朝ごはんの話とか、無理に集団生活にしばらくつけない、その時々への対応とか、親からそれを園に求めることはなかなかむずかしいですが、園で柔軟に子供第一の目線でされているところが凄いなと思いました。
- 日頃から感じていること、頭ではわかっているつもりでもなかなかできないこと、みんな同じなんだと感じました。「子供の目線になって」と思っていること自体が「大人の目線でものをみている」のかなとも今日のお話を聞いて思いました。自分が子供の頃感じたことを思い出しながら、子供と人と人として関わっていけたらいいなと思いました。

## 「9月議会報告」

<以下は、小澤議員・瀬戸議員・大野議員による一般質問に対する石田健康福祉部長による答弁の要約です> \*詳細は、草加市議会HPをご参照下さい。

①0歳児保育に関しては、今後家庭保育室や小規模保育園において実施していく方向。移行にあたっては、公立保育園と同様、あるいはそれ以上の保育の実施基準を設ける中で、施設の安全面の考慮や保育内容の充実を図っていく予定。保育園を核としたサテライト方式などを取り入れていく。

移行のタイミングとしては、当然家庭保育室の充実強化を図った上で導入していく。

②保育園の大規模化については、乳幼児の人口推移や保育環境の変化などを十分に考慮して、さらには保護者や現場の職員などの意見を伺う中で適正な定員にしていきたい。

③第2きたうら保育園については園舎がプレハブであることから、安全面を考慮して使用を5か年に限る。

④病児保育もしくは病後児保育室の設置は、今後市立病院や医師会・園医等と協議・調整する中で、できる限り早い時期の実施に向けて検討していく。

⑤上野学園跡地の開発に伴う保育園の増設・新設に関しては、今後の乳幼児人口の推移や保育環境の変化を見据えて検討するとともに、必要に応じて民間保育所の設置を働きかけていく。

⑥保育時間の延長については、現在は19園中10園のみの実施だが、平成21年度までに19園全園での実施を目標としている。

⑦現在4時30分までとなっている0歳児保育における時間延長については、今後の家庭保育室への移行の協議の中で検討していく予定であるため、明確に答弁できない。

<以下は、9月議会提出の3万署名の請願が継続審議となった経過を受けて議会最終日に採択された議員提出議案とそれに関する補正要望を含めた今村議員・瀬戸議員による賛成意見の抜粋です>

議案第19号議案「少子化対策及び子育て支援施策の充実を求める決議」

平成17年版少子化社会白書では、我が国の合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子どもの平均数)は1.29と過去最低を記録し、草加市の平成16年度の合計特殊出生率は、1.23であり、全国平均を下回っている状況である。

このような中、草加市の現状としては、市内に出産できる病院がほとんどなく、草加市立病院においても産科が休止され、1年以上経っても再開のめどが立っていない状況であり、さらに保育園においても待機児童が年々ふえ続けており、子育て支援策が充実しているとは言いがたい状況である。

よって、少子化対策及び子育て支援策の充実を図るため、次の事項の実現を強く求めるものである。

- 1 草加市立病院の産科を早期に再開すること
- 2 さかえ保育園の建て替えにおける大規模化に当たっては慎重に対応すること
- 3 第2きたうら保育園の閉園に合わせて、新たな保育園を検討すること
- 4 就学前の障害児のための療育の場をふやすこと
- 5 病児保育室もしくは病後児保育室を設置すること

以上決議する。

平成18年9月20日

草加市議会

①今村議員：赤ちゃんを産んでもゆっくり産休が取れないで職場に戻らざるを得ない子育て世帯にとって、これからはますます必要になるであろう0歳児クラスの設置は、何を置いても草加市の子育て支援策として充実させなければならない施策ではないでしょうか。平成17年度末の待機児童数は、既に御案内のように414人になっておりますが、そのうちの119人がゼロ歳児です。新設の保育園にゼロ歳児クラスを設けることは急務であります。

②瀬戸議員：ゼロ歳児をきちんと安心・安全に受け入れていけるような受け皿ができて上がるまでは、やはりこの分野は公立保育園で持っていくべきだということでもあります。つまり、きちんと受け皿ができるまで手を離しちゃいけないよということが、この決議を議決するに当たっての条件であるということを確認申し上げておきたいということでもあります。

